

地域を元気にする子どもの活動を促す PTA 活動

岩国市立柱野小学校 PTA

1 学校地域の概要

PTA 会長 : 前 川 信 義
 学 校 長 : 上 田 隆 敏
 児 童 数 : 20 名
 会 員 数 : 家庭数 13 教職員数 8
 所 在 地 : 〒741-0073 山口県岩国市柱野 1092-3
 TEL 0827-46-1006
 FAX 0827-46-1589
 E-mail hashirano-e@edu.city.iwakuni.yamaguchi.jp



柱野は岩国市岩国地域の西部に位置し、市街から玖西盆地に向かう欽明路道路や岩国・徳山間を結ぶ J R 岩徳線が通っている。また、周囲を山に囲まれ、中央には御庄川の清流が流れるなど豊かな自然に恵まれている。

この地方の歴史は古く、江戸時代には旧山陽道の往還道として栄えていた。家並みの一部には当時の面影を残しているところもあり、古宿・上市・下市・一軒屋・二軒屋・西氏などの地名や各所に残る石碑、各種の文化財から、宿場として栄えた当時の様子を窺い知ることができる。

現在、校区である師木野地区の人口は約 600 人であるが、高齢化が進んでいる。岩国市の中心まで約 7 キロメートルと交通が便利なこともあって、住民の多くは市内や周辺の工場、会社、商店などに勤めている。そのため、兼業や共働きの家庭が多い。また、欽明路道路が交通の動脈となっていることから、交通量は市街地並みに多い。

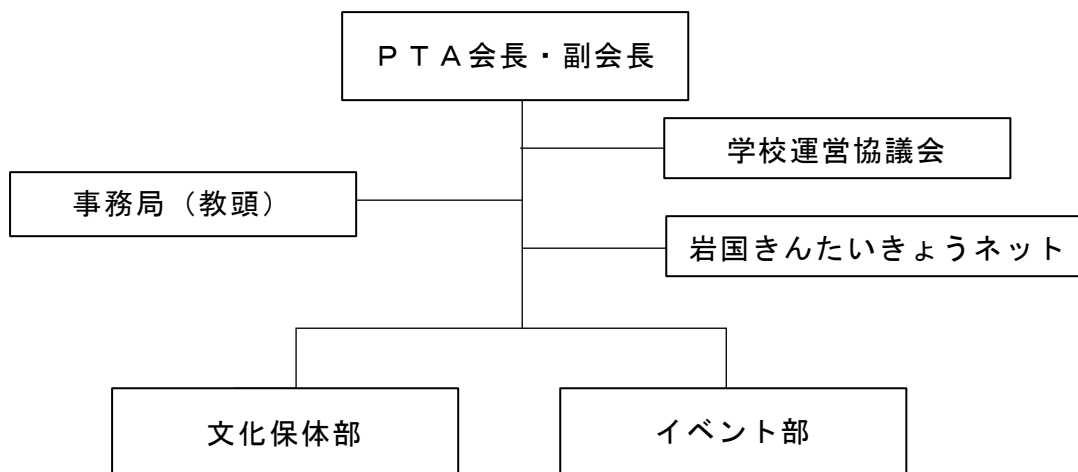
130 余年の伝統をもつ柱野小であるが、現在地に移転して 20 年経過している。地域の方々の物心両面にわたる絶大なる協力があり、教育的関心も高い。こうした風土に支えられ、児童の教育環境はきわめて整備されたものとなっている。

◇児童数の推移◇

各年度 4 月 1 日現在

年度								学級数	学校長
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計		
平成元年	5	8	14	10	9	11	57	6	中村 祥助
平成 10 年	2	4	6	4	9	11	36	5	加村 憲治
平成 20 年	4	3	2	4	1	3	16	3	田中 英二
平成 28 年	2	5	1	5	1	1	15	3	上田 隆敏
平成 29 年	3	2	4	1	5	1	16	3	上田 隆敏
平成 30 年	5	3	2	4	1	5	20	3	上田 隆敏

2 PTA 組織



3 研究テーマ

地域を元気にする子どもの活動を促す P T A 活動

本校は「ふるさとを愛し、豊かな心を持ち、たくましく生き抜く柱野っ子の育成」を学校目標とし、活動や体験をとおして学び、「大好き！柱野」をキーワードに、子どもや保護者、地域そして教職員が誇りとする学校づくりをめざしている。また、平成27年度よりコミュニティー・スクールとして歩み始めたことを機に、学校や地域社会の固有な教育条件を活用し、連携して地域とともにある学校づくりを推進している。

しかし、現在の柱野小校区である師木野地区が抱える課題は、子どもたちの将来の課題として大きくのしかかってきている。地域住民は高齢化にあり、子どもたちとのかかわりの機会が減ってきている。中には、関係が疎遠になり外出自体が減ってきている方もおられる。また、柱野地区に住む子どもの数も減少傾向にあり、町中から子どもの姿が減り、子どもたちのはしゃぐ声が聞こえなくなっているという寂しい現状がある。子どもたちの笑顔でこの地域が元気になり、子どもたちも地域の温かさに触れることで柱野が大好きになり、地域が活性化していかないものかと考えている。

柱野の子どもたちは、純朴で素直なよさを持ち、明るく元気である。また、人のために役に立つことを進んでし、周りの人から好かれる人なつこさをもっている。このよさを伸ばして、柱野らしい子どもたちに育てるためには、学校・家庭・地域が協働で育てていくことが大切となる。そのためには、子どもたちの活動の様子を実際に見ていただけるように、折に触れ多くの方に学校へ足を運んでいただくための「しかけ」を用意する必要がある。子どもたちが地域とかかわることで、みんなが元気になるような取組を、PTA活動としてもバックアップし、推進・充実させていきたい。

4 活動内容

(1) 学校行事の中から、学校・家庭・地域が交流できる取組

① 1年生を迎える会・安全ボランティアの会（4月27日）

本校では、1年生を迎える会に合わせて学校安全ボランティアの会を行っている。本年度は、67名の方に安全ボランティアとして登録いただいた。

新年度が始まるに当たり、入学したての1年生を地域の方にも知っていただき、在校生の温かい歓迎の様子を見ていただいている。また、引き続き行われる会が児童の見守り活動をお願いする場になっているとともに、ボランティアの方との関係づくりを行う場にもなっている。

ボランティアの方とのふれあい活動として、柱野小で受け継がれている「柱野カルタ」を一緒に楽しむ活動を取り入れている。これは平成元年に地区の古老が語ってくださったことを元に、当時の児童が作成したものであり、今では、当時の児童が保護者となってこの中に参加しておられる。



② PTA奉仕作業（8月19日）



夏季休業中に、児童・教職員・保護者・地域住民、更には学校施設利用団体や地域企業が参加し、学校の環境整備を行った。例年、卒業生もこの奉仕作業に加わるのだが、今年は中学校の体育大会と重なり、残念ながら卒業生の参加が難しかった。しかし、柱野小学校にかかわる多くの方の力添えで、学校が大変きれいになった。

2学期からの学校生活が、またのびのびと行える快適な環境となった。

③ 秋季運動会（9月22日）

柱野小学校は、師木野地区の運動会も兼ねて、毎年児童数以上の方々が参加され、盛大な運動会となって行われている。今年も多くの方々に参加いただき、さわやかな秋空の下、みんなでいい汗を流すことができた。

児童と地域住民が分かれて行う種目もあるのだが、一緒になって行う競技や演技もある。例えば、敬老会との合同種目に「玉入れ」があるのだが、児童もお年寄りも夢中になって玉を投げ入れていた。お互いに声をかけ合い、一つのかごをめがけて集中する姿は、なんとも微笑ましいものだった。児童の元気な姿に触発され、お年寄りの方も負けじと活動されている様子を見て、児童の笑顔は地域を元気にする



と改めて感じた。

また、全員参加の「岩国よいとこ」では、全員で大きな円を作り踊ることができた。この日までに、児童は地域の方を講師として学校にお招きし、手ほどきを受けている。運動会でも、大人の踊る姿を見ながら手足を動かし踊る姿は、地域文化の伝承の一コマであると感じた。

全 21 のプログラムがある運動会であるが、競技も係の分担も、児童も大人も一緒になって行うことで、お互いに協力し合い一つの運動会を作り上げている意識が高い。

柱野小学校は小規模の学校ではあるが、地域の方に愛され、児童を育てていただいていると感じている。



④ 6年生を送る会・学校安全ボランティアの会（3月4日予定）

卒業を間近に控えた6年生に、在校生みんなで感謝の気持ちを伝えるために集会を開いた。大きなけがや事故もなく、6年間で心も体も大きく成長した姿を見ていただくために、安全ボランティアの皆さんもお招きし、その姿を見ていただいた。児童と一緒にゲームに参加する場面もあり、和やかに進行した。



その後、安全ボランティアの会を開いた。1年間、児童の安全を見守っていただいたことで、全員がけがなく元気に登校できたことを喜び合い、ボランティアの方々へ感謝の気持ちを伝えた。児童は、この日までにお礼のしおりを作成し、それに併せて3年生が理科で育てたひまわりの種を一緒にお渡しした。来年の夏には、柱野のあちこちでひまわりの花が咲くことであろう。



（平成29年度実施分の報告）

(2) 地域の方を先生として迎える取組

① 乗馬クラブ・千体仏の見学（6月24・25日）

1・2年生が生活科の「町探検」の学習で、校区内にある乗馬クラブと千体仏の見学に行ってきた。

柱野小学校のグラウンドの南側にある乗馬クラブから、時折、馬の鳴き声が風に乗って聞こえてくることがある。その乗馬クラブを訪ね、本物の馬を間近で見えてきた。世話をするときの苦労や大変さを伺うと共に、馬とかかわることで得られる喜びを聞かせていただいた。帰りには馬に触らせていただき、その感触に児童は興奮気味だった。



続いて、地域にある千体仏を管理しておられる山崎さんに話を聞きに行った。千体仏とは何なのか、なぜそこにあるのか、低学年にもわかる言葉でゆっくりと説明して下さった。児童は小さな仏様に目を細めながら、柱野に残る史跡を理解していった。そして、自分たちも大切に守っていかなくてはいけないことに、気づくことができた。



② クラブ活動「グラウンドゴルフ」（11月12日）

年に10回ある活動の中で、数回は地域の方を外部講師として招いて活動を行っている。「グラウンドゴルフ」は毎年行っている活動で、今年も児童は楽しみにしていた。

講師として来ていただいた方は、地域のスポーツ団体としても活動しておられる方で、週に一度、小学校のグラウンドで練習しておられる。

簡単に手ほどきを受け、年に1回ではあるが、昨年度までの経験を思い出し、あっという間に自分のリズムで打ち進むようになった。上手に入れていくためにアドバイスを受けながら、地域の方と楽しく触れ合うことのできた貴重な時間となった。



③ フラダンス教室（11月27日）

フラダンスを習っておられる地域の方が、「練習の成果を、是非児童に見せたい」という思いから始まり、参観日に合わせて、地域の方も保護者も一緒にフラダンス教室を行うことに発展した。公民館にも広報誌に案内を掲載してもらい、多くの方に足を運んでいただいた。

始めにフラダンス教室の方々に踊りを披露していただき、華麗な身のこなしに魅了された。引き続き練習に入ったが、「まずは衣装から入ろう」ということで、準備いただいた服やレイなどの装飾品を身につけ、気持ちから入っていった。児童は歌詞に



合わせた意味のある動きを教わりながら、初めのうちは恥ずかしそうに踊っていたが、練習を重ねる度に上手に踊れるようになり、最後は曲に合わせ、各々が気持ちよく踊り、心地よい汗をかくことができた。

④ 昔のあそび（12月3日）

1・2年生が生活科で行う「昔のあそび」に、地域の方をゲストティーチャーとしてお招きし、「むくご」や「おはじき」、「お手玉」や「ゴムとび」など、昔から伝わる遊びについて教えていただきながら、楽しく一緒に活動をした。



児童は、やり方を教わりながら実際にやってみることで、夢中になって遊びに没頭していった。数人で集まることによって成り立つ遊びの数々に、友だちと過ごす楽しさを味わい、昔の子どもたちの楽しみを知ることができた。

この学習後も、しばらくは休み時間を使って、楽しく遊ぶ低学年の姿が見られた。

(3) 児童の成長を促す小小連携

① 岩国小学校との交流学习（11月2日） ※PTA活動支援助成金使用

今年で5年目の実践となる岩国中学校区の小小連携の取組の一つとして、岩国小学校との交流学习を行った。少人数で行う日頃の授業と違って、多人数学級の中に入ることにより、岩国中学校進学を見通した児童のキャリア発達に資するところをねらいとして実施している。PTAとしても、多人数とかかわることが児童の成長に大きな刺激となると期待している。

普段は小規模の環境の中で教師や友だちに守られながら過ごすことが多い児童は、最初の内は人数に圧倒され緊張して固まっていたが、周りから話しかけてもらいながら少しずつ打ち解け、帰る頃には自然な笑顔で過ごすようになっていた。また来年も会うことを約束しながら別れる姿を見て、継続的に行っていきたいと考えている。

② 文化庁公演（11月9日）

本校では、近隣の小瀬小学校と河内小学校の3校で連携し、文化庁公演を実施している。今年度は本校が主催校となっており、観劇を実施した。本校全20名の児童も劇中に、役者として出演しており、そのため地域の方にも見に来てくださるよう声をかけた。普段は限られた人の前で発表するしかないのだが、多くの方に観に来ていただくことで、貴重な経験の場となっている。また、地域の方にとっても児童のがんばる姿に元気をもらったと好評であった。



(4) 地域の特徴を生かした取組

① 納涼祭（8月26日） ※PTA活動支援助成金使用



学校運営協議会が主体となって取り組む納涼祭が、2年目を迎えた。今年は山口ゆめ花博が開かれるにあたり、イメージソングを歌われる方が、柱野小出身の原田侑子さんに決定したこともあり、納涼祭でもコンサートを開く計画を進めた。納涼祭という一つの仕掛けの中で、児童も地域も学校も一同に介して集まり、同じ時間を楽しむことができるように、約4時間半の時間の中に5つの計画を入れこんだ。



公民館と連携し、実施されている講座の作品展を学校で開くようにした。日頃目に触れる機会の少ない受講者の作品を多くの方に見ていただき、大好評を得ることができた。展示された方も大変喜ばれた。



また、児童・保護者、そして卒業生が中心になって接客した「チャリティーそうめん」では、多くの方が訪れ、大盛況だった。児童がはつらつと動き回る姿に地域の方は目を細められ、ねぎらいの言葉をかけられた児童はますます張り切るといふ、気持ちのよい循環がその場で起こっていた。

今から17年前に柱野小を卒業した原田侑子さんは、コンサートの中でふるさとに誇りをもってほしいことや、夢をもってほしいことを話された。児童にとってはあこがれの先輩であり、現在活躍されている姿を見ることで、身近な先輩として心強く感じたことだろう。

納涼祭の始まる3時間前より、地域から準備ボランティアとして30名近く集まり、約4時間半の祭には、200名を超える方々に集まっていた。「とても楽しかった」「来てよかった」という感想をたくさんいただき、無事に終えることができた。

② しめ飾り作り（12月19日） ※PTA活動支援助成金使用

師木野地区に伝わるしめ飾り作りの製作体験を通して、ふるさとの伝承文化を大切にする気持ちを育てるため、ふるさと学習の一環として社会福祉協議会と連携し、毎年行っている活動である。地域の方に手ほどきを受けながら、縄をなったり編んだりしながら、新年を迎えるために、自宅の玄関に飾るしめ飾り作りを行った。

この活動のためにお手伝いいただけるボランティアの方を、公民館だよりを通して地域に呼びかけると、早朝より21名の方が集まってくださった。また、しめ飾りの材料である「わら」や「裏白」「ゆずり葉」は、地域の方にご提供いただいた。まさに、地域の方と共に活動するものとなった。



午前中は地域の方や保護者を中心に御幣の準備やわら打ち、袴取りが行われる中、3・4年生がわら打ちに参加し、共に活動をした。午後からは全児童が参加し、しめ飾り作りに挑戦した。初めの内はよくわからなくて手を添えることも控えめだった児童が、地域の方に教えていただき作業に慣れるに従って、終わったところを教え合うようになった。特に6年生は自分の作り終えてからの2つ目の作業は、教わったことをもとに、自分たちで作れるようになっていった。



児童は作業を通して、しめ飾りのことはもとより家族のことや身の周りの事柄など、地域の方と楽しそうに話をしている姿を見ることができた。完成した自分のしめ飾りを地域の方に見せ、褒めていただき、とてもうれしそうだった。



正月には、柱野の各家庭の玄関に飾られるしめ飾りを見ながら、親子を超え地域の方と話が弾むことであろう。

5 成果と課題

(1) 成果

新年度が始まると、校長より折に触れて、文書や言葉で学校経営方針を保護者や地域に伝えてきた。学校の考え方についてご理解いただき、育てたい子どもの姿を共有しながら歩みを進めていった。課題にあがっている、学校も家庭も地域もみんなが元気な地区であるために、新しい取組を増やすのではなく、学校が今までやってきた行事や学習をもとに、地域とかかわれる部分を整えることに力を注いだ。また、学校の行事は、学校だよりや公民館だよりを通して来校を呼びかけたり、地域の方と共に地域家庭を回って声かけを行ったりすることで情報を伝え、学校への関心をもっていただくよう形を整えた。

その成果として、多くの方に学校へ足を運んでいただき、児童の様子を直接見ていただく機会が増えた。また、保護者や地域の方と一緒に活動する場を意識的に仕組んでいくことにより、三世代のふれあいの機会が増えていった。

児童は保護者や地域の方に学びの姿を見ていただくことで、意欲の向上につながり達成感や満足感を高めていくことができた。地域の方は児童のがんばる姿から力をもらい、笑顔で学校を後にされた。児童と地域と同じ時間や場所を共有することで、双方向の活性化につながっていると感じることもできた。

(2) 課題

来年度以降、本校の児童数は減少傾向をたどることとなる。学校だけでは機能しきれないところが増えていくことがわかっているので、保護者のみならず地域の方も巻き込んだ取組を進めていくことが必至となる。今、地域で主となり活躍されているの

は70代・80代の高齢の方である。若いお父さん・お母さん世代を取り込むために、地域も一生懸命になっておられるところである。

学校はどんな形で保護者や地域にサポートをお願いしたいのか、地域はどんな形で協力をお願いすると負担にならず動きやすいのか、地域を巻き込んだ取組を模索し続けることが大切だと思う。そして、学校と地域の架け橋となる役割をPTA活動の中にも位置づけ、子どもたちの成長を地域をあげて見守る体制を整えていかなくてはならない。「地域の中の〇〇ちゃん」と覚えられ、大人から声をかけられると共に、「地域におられる〇〇さん」として子どもたちから話が出てくるような、そんな関係が地域全体に広がるともっとすてきな「ふるさと柱野」になるのではないかと思う。